

第71回 AI活用は、いつでも、だれでも、タダで・・・PART3

ChatGPTやGemini（旧Bard）は、インターネット接続できる端末さえあれば、いつでも、誰でも（技術的知識皆無でも）、タダで活用できるとお伝えしてきましたが、最近、Edge画面の右上に「Copilot」ボタンが表示されるようになり、ログインしなくてもCopilotがすぐ使えるようになったことから、ますます生成AIが手軽な存在になりました（ただし無料版Copilotには今のところ回数制限などがあるようです）。

復習ですが、生成AIの利用にあたって、「個人情報、企業秘密などは入力しない（入力データがAI側のサーバーに送られてしまうから）」「回答は鵜呑みにせず、対外的に利用するときは必ずチェックする（誤りや、偏見を含んだ回答もありうるから）」「著作権などに注意する（元データが他者の著作物である可能性もあるから）」の3点だけ気をつければ、あとはどう使っても大丈夫です。とりあえず「お遊び」のつもりで構いませんのでどんどん使ってみて、慣れてしましましょう(=^・^=)。

これも復習ですがAIの使い方として有効なのは、「聞く」のではなく、「やらせる」「作らせる」ことです。この観点から、今回もプロンプト（AIに入力する指示文）の例を紹介します。いずれも、1回のプロンプトで終らせず、修正の指示や、追加の指示をしてゆくことで、有用な成果物に近づけていきます。（「」内がプロンプトで、矢印に続くのが次のプロンプトです。）

- ①「北海道〇〇町の障がい者就労支援事業所です。地元の食材を活かした調理パンを開発して、工賃アップにつなげたいと考えています。その企画案を3つ挙げて下さい。」→「第2案について、宣伝広告文を考えて」→「もっと、地元食材を強調し、ヘルシーさが伝わる宣伝広告文にして」→「地元新聞に掲載してもらうためのプレスリリースも作って」→「もっと、障がい者の自立や、地域振興につながるものであることを強調して」
- ②「知的障がい者が多く在籍し、農産物の加工を主にしている障がい者就労支援事業所です。工賃向上のために新しい事業が必要と考えて、クリーニング事業の立ち上げを、理事たちに提案しているのですが、どういうわけか理解されません。理事たちが反対する理由として考えられることを、3つ挙げて下さい。」→「うち、(2)の論点について、私からの反論として挙げられるものを、4つ考えて」→「うち(3)のポイントについて、〇〇市の担当者に賛同してもらうための依頼文を考えて」→「もっと、障がい者の自立や、地域のためにもなるという視点も盛り込んで」
- ③「聴覚障がい者が多く在籍する障がい者就労支援事業所です。利用者の減少に悩んでいるのですが、何をどうしたらいいかわかりません。ポイントを3つ考えて下さい。」→「うち(2)のポイントについては、利用者や職員の意識改革が必要になると思います。会議で職員を説得するプレゼンテーションを考えて下さい。」→「その改革も想定した上で、利用者募集の広告文を地元新聞に掲載しようと思っています。300字前後で広告文を作ってください。」→「もっと、感情に訴える内容に。一文を短めに。」

これらはイメージ例です。まずは「遊び半分」でも、とりあえず色々試していけば、A I に対する抵抗も弱まり、いずれ本格的に活用してゆくことができるでしょう♪。

(2024年5月12日現在の状況により執筆しています。A I ツールをめぐる情勢は刻々と変化していますのでご注意ください。

なお、この記事は、今のところは、人間が執筆しています(・_・;)。